

第31回都道府県対抗ジュニアバスケットボール2018 参加報告書

中体連 川井 剛

○期間 平成29年3月27日(火)～3月30日(金)

○会場 東京体育館/越谷総合体育館/上尾運動公園体育館/市川国府台体育館
浦安運動公園総合体育館/横浜文化体育館/川崎市スポーツ・文化総合センター

○日程

3月27日(火)：審判研修会(東京体育館A～Dコート)

日程	内容	講師	備考
9:30～	受付		
10:00～	開校式		更衣をして参加
10:10～	ガイドラインの理解と確認	望月氏(広島)	講話
10:30～	3POの基本的なメカニクス	小出氏(京都)	実際の動きを見ながら
10:50～	ウォーミングアップ	望月氏(広島)	
11:00～	実技研修	大野(奈良)	
13:30～	ゲーム研修	主任：東條(東京)	
17:00～	閉校式		
18:00～	審判会議		着替えて参加

3月28日(水)：予選リーグ(各会場にて)

3月29日(木)：男女決勝トーナメント2回戦まで(東京体育館A～Dコート)

3月30日(金)：男女準決勝・男女決勝(東京体育館)

○研修会内容

【研修会テーマ】・・・3POメカニクスの習得とプレイコーリングガイドラインの理解・確認

【研修会内容】・・・近畿・中国ブロックがチーフとなって実施。全体を4つのグループに分け、それぞれに講師として本部・近畿・中国ブロックの上級を割り当てる。

【講師】・・・本部(御手洗氏、関口氏、田邊氏、武藤氏、星野氏)
近畿・中国(石川氏、開氏、望月氏、小出氏、大野氏、高嶋氏)

【講話I】・・・プレイコーリングガイドラインの理解と確認

・講師の望月氏より、ガイドラインの中でも3つの項目についてお話があった。

① ブロック or チャージ

リーガルガーディングポジションについて、インパクトの大きい触れ合いであきらかにオフエンスに責任がないものについて、RSBQを考慮することについての確認があった。

② プロテクトシューター

シューターが着地をする権利について、着地の際にけがをさせないということについて、オフエンスが足を意図的に広げて触れ合いがおこるものについての確認があった。

③ フェイク

欺くプレイであるということについて、オフェンスにも起こりうるということについて確認があった。

【 講話Ⅱ 】 ・ ・ ・ 3POの基本的なメカニクスの確認

・講師の小出氏より、3POメカニクスの中でも大きく2点の確認が行われた。

① プライマリーについて

- ・自分のプライマリーから始まったプレイは、最後（プレイの終着点）まで確認をする。
- ・プライマリエリア（自分が責任をもってプレイを判定するエリア）
- ・プライマリアングル（プレイを捉えている良い角度）

② リード、トレイル、センターのそれぞれの注意点（ローテーション含む）

・リード

※ボールサイド＝ストロングサイド（ボールサイドに2人の審判）

※ローテーションは走らずシャープに歩く（スキャンザペイント）

※セットアップポジション⇔クローズダウン⇔スイッチサイドの流れ

ボールがミッドレーン（クローズダウン）⇔ボールがセンターサイド（スイッチサイド）

※3Q（クイックショット、クイックドライブ、クイックパスバック）が起こった際はローテーションしない

※アウトサイドイン（ドライブが起ったからといって中に入らない）

・トレイル

※基本的に2歩横、2歩後ろ（遠くなりすぎない）

※リードが見えないものをカバーする意識

※時間の管理、2点なのか3点なのか

※ローテーション中はピックザペイント（ボールを見続けてしまわない）

・センター

※ストロングセンター（3POで重要なポジション）センターが機能すれば、3POのメリットが発揮される。センターにしか見えないものを思い切ってコールする。

※ベーシックセンター（FTラインの延長線上、コートの中）

※センターサイドからのドライブへの対応（センターのプライマリ）

※リード側からのカールプレイ

※ローテーションの際、慌ててトレイルにならずにプレイにステイしておく。

【 実技Ⅰ 】 ・ ・ ・ ウォーミングアップ

・望月氏より、全中のA級研修会にて実施していたものを、我々も体験した。

① トレイルからリードへダッシュ（4秒で）

② ファウルコール（大声で）

③ TOへのレポート

【 実技Ⅱ 】 ・ ・ ・ コートを使つての実技研修

・大野氏より、コートを使つての実技研修を3パターンおこなっていただいた。

① ハーフコート5on5

高校生にたくさんパス交換をしてもらい、ローテーションのタイミングをつかむ練習をした。最終的にショットに向かうプレイの中で、判定・レポートをし、交代する。

② ハーフコート 5 on 5

さっきと同じ要領で実施。その中で、最近多いハイピックを軸にオフェンスをしてもらい、スクリーンプレイの見方も交えて判定する。

③ オールコート 5 on 5

オールコートの 5 on 5 を 1 往復半して交代。

【 ゲーム研修 】・・・早稲田実業 - 甲南 CC : 石川 (大阪 A級)、U1 川井、U2 西本 (愛知)

PCG

- ・ボールサイド 2 レフリーを積極的に行うこと
- ・ガイドラインに沿った判定を早い段階から心がけること
- ・時間の管理、ファウルの数などを 3 人で協力して行うこと
- ・お互いにアイコンタクトをとって審判すること

実際

比較的落ち着いてプレイを見ることができた。相手の見ているところや自分にしか見えなところなどを意識してできた。両方に大きい選手がいて、ポストのやりあいについて判定ができない部分があった。

MTG

主任 東條氏 (東京 A級)

- ・ローテーションは積極的にできていた。
- ・ニューセンターが遅くなることがあった。
- ・次の段階として、ローテーションをしながらどのプレイに目を当て、判定につなげるかを意識してほしい。
- ・Cのプライマリでの判定につなげるためのアングルの工夫
- ・プレゼン→コールしてすぐ歩くではなく、コールして番号もすべて確認してから動くとうい

○3月28日 (水) 予選リーグ 市川市国府台市民体育館 女子Cリーグ第3試合

広島 - 千葉 主審 : 浅野氏 (大阪 B級) 副審 : 川井

PCG

- ・ガイドラインを見ながらの確認を全項目
- ・基本的な 2 POメカの確認、3 番エリア～4 番エリアの引き渡し方、リードが右にわたるケースや渡らなかった場合の見方
- ・OBBの協力の仕方、クロック管理 (誤ってショットクロックがリセットされた場合の対応の仕方)、ファウルの数の確認、3 P or 2 Pの協力、アイコンタクト、バーバルサポート
- ・2 POだから起こる 2 人の中のスポットをなくせるように

実際

身長差のあるチーム同士の戦いで、両チームのまとが絞りがやすいゲームだった。1 Pのテンポセティングがスムーズだった。PCGで確認した、OBBでの協力や、ショットクロックでの対応という場面が起った。広島ベンチの方がストレスをためていたように感じたので、コミュニケーションを心掛けた。その中で、特にトレイルの時に最終的な局面が見えにくいことがあった。

MTG

主任 小出氏 (京都 A級)

- ・基本的には大きな取りこぼしやミスもなく、スムーズな運営だった。
- ・プレゼンもお互いに声を出し合いながら行っていて安心感があった。
- ・細かい部分で・・・1Pの両チームのファウルの数の差、ショットクロックが誤ってリセットされた際の対応の在り方、OBB協力時のスムーズさ、クロスコール、ベンチ対応。細かい種から大きなトラブルという花が咲かないように、しっかりと二人で芽を摘んでいくことが大事
- ・トレイルの際に、プレイを見に行こうとオートマチックに下に降りる傾向があるように感じる。逆にブラインドになるケースもあるのではないかと。
- ・「ここからこんなプレイが展開される」という絵を自分で描いておいて、それに対応できるポジションに前もっていることで、何かが起こった時に落ち着いて判定をすることができると。始まりの位置にもう少し工夫を。

○3月29日(木) 決勝トーナメント 男子2回戦 東京体育館Dコート第6試合

東京 - 京都 主審：山内氏(長野 A級) 副審：川井

- PCG**
- ・2POメカの基本的な確認。特に、東京に大きい選手がいるので、リードはそれを感じて右に渡ることを躊躇しないということ。その際、トレイルは逆サイドをケアする意識をもつということ。逆にふられた際には頑張ってもどるということ。
 - ・トレイルの位置取りで、3番エリアから4番エリアに渡った時に、3POでいうCのポジションで次の展開に備えること。
 - ・リバウンドプレイを二人で協力して見るということ。急いでニューリードに行くのではなく、見届けてから走る。
 - ・オールコートの際に、リードがしっかりと残ってあげるということ。
 - ・リードから見えづらいOBBの確認。ヘルプを求められたら、確認しているレフリーがしっかりと笛をならしてディレクションする。
 - ・昨日までの様子から、ショットクロックオペレーターが慌ててリセットをしてしまいそうなケースを事前に確認。ゲーム前に当該生徒と打ち合わせ

実際

ゲームの序盤に山内氏がテンポセッティングのコールを3つしていただき、自分もゲームに入りやすかった。ショットの場面でほとんどダブルコールだったので、安心して落ち着いてゲームを進めることができた。前日の課題であったクロック管理を意識するために、今まで以上に何度も時計を見るように心掛けた。また、どんなプレイが展開されるのかの絵を描いて待ち構えて、実際にコールすることもできた。その中で、リバウンドプレイで腕が頭にヒットしたケース、トランジションの中で目の前でブロックチャージのビックインパクトがあったケース、6番エリアの深い位置でのショットのケースで自分のプライマリを判定することができなかつたのは悔いが残った。

MTG 主任 阿部氏(岩手 A級)

- ・主審の山内さんがゲーム全体を包み込む感じがあり、とても見ごたえがあつていいゲームだった。声を使ってプレイをリードしていた。
- ・自分の反省にもあつたように、自分のプライマリを判定できなかつたケースについて、そ

の時のメンタルや位置取りや感じ方を振り返ってほしい。

- ・コミュニケーションは大事だが、過度なコミュニケーションも考えなければならない。聞かれたことすべてに答える必要が本当にあるのか。聞きすぎてしまわないように、適度なコミュニケーションの在り方を探してほしい。
- ・落ち着いた雰囲気ですぐと審判をすることができていた。

○3月30日（金）女子準決勝 東京体育館Dコート第1試合

千葉 - 愛知 CC：大野氏（奈良 A級） U1：濱本氏（岡山 A級） U2：川井

PCG

- ・3POメカニクスの基本的なエリア、アングルについて。
- ・ローテーションを積極的に。その中で、リードとトレイルが連動してローテーションができること。センターがしっかりとプレイにステイをしてローテーションが完了するのを確認してから動くこと。
- ・リードは4秒でセットアップポジションへ。そこで何を見るか。余裕があるので、時計のことも確認する。
- ・センターはオールコートプレスの場合はバックコートに残る。
- ・3Pなのか2Pなのかの確認、ファウルの数EOPでのクロック管理の確認をとにかく全員で徹底する。
- ・ファウルコールのあとのアイコンタクトを徹底して、お互いに情報を共有する。
- ・タイムアウト時に出来るだけお互いの持っている情報を出し合う。

実際

PCGでの確認通り、ローテーションをスムーズに、連動して行うことができた。また、EOPでショットになるケースが2回あり、2回ともクロックや2P or 3Pの確認がしっかりとできた。その中で、ポストのオフENSEの手を判定できずに、後半に大きな現象として起こってしまった。序盤で似たようなケースをしっかりと判定できていなかった。また、どのポジションにおいても、自分のプライマリエリアで判定できないものがあった。レフリーとして自分が決着をつけなくてはいけないものに決着がつけられないのは、位置や見方にまだまだ改善点が多いからだと思った。

MTG 主任 山内氏（長野県 A級）

- ・トレイルから始まるプレイで、最終局面をとらえるにはもっと追いかかけ方や初めの位置の工夫が必要
- ・リードでローテーションした際、スイッチしたサイドの自分が行きたい場所に行ってから体の向きを変える。
- ・センターの際の体の向きがトレイルのように構えている。瞬間的には必要かもしれないが、基本はベーシック。

※着替え後、crewで映像を見ながらMTGを行った

○全体を通して○

今回参加させていただいて感じたことは、大きく以下の3点です。

1点目は、PGCの大切さです。メカニクスの確認はもちろんですが、基本的なメカニクスの中で起こりうるケース、お互いに協力の必要な場面、実際に何かが起こった際の対応の仕方、お互いがこのゲームを通して頑張りたいことなど、細かい点までじっくりと時間をかけて行った結果、実際のゲームでカンファレンス通りのことが何度も起こりました。選手やコーチや観客が、バスケットボールのゲームに100パーセント集中してもらえるために、予測しうるトラブルを未然に防ぐために、非常に大切だと改めて感じました。特に、クロック管理については今までできていたつもりでしたが、もっと確認が必要であることが分かりました。1秒以下でも勝敗を左右する競技なので、クロック管理については県内でも今まで以上にPGCで確認したいです。

2点目は、映像を使った振り返りの必要性です。今大会はライブ配信があったため、本戦での撮影はできませんでした。しかし、研修会のゲームでは、多くのブロックが協力して近隣のレフリーの姿を映像に撮り、反省に生かしていました。私自身も山口氏に撮ってもらい、crewでの反省に生かしました。また、本戦も、ホテルに帰ってから見逃し配信で見ることができたので、見て確認をしました。判定だけでなく、メカやプレゼンなどを言葉だけでなく映像で振り返ることは、トップリーグでは当たり前に行われていることなので、やはり県内でも当たり前に行っていきたいです。

3点目は、細かいことへの気づきや、何か起こりそうなときの対応の仕方です。明らかなファウルやヴァイオレーションの判定ではなく、例えば時間の管理やT0管理、ベンチ管理などです。細かいことかもしれませんが、大きなトラブルの背景には、レフリーの管理できていない小さなことの積み重ねがあるのだと思いました。それらを未然に防ぐための、細かい部分への気づきや対応が、上級の方々はとてもすごかったです。シュートが決まった後に立ちあがって喜ぶベンチへの声かけ、ストレスをためているベンチや選手へのコミュニケーション、いろいろなところにアンテナを張り、いろいろなものに気づき、トラブルを引き起こさないために気遣いをしている様子を肌で感じました。これらのことはいきなりできるものではありませんが、意識をすれば気づきは増えるものだと思います。県内でこれらのことへの意識をさらに高めたいと思います。

今回、初めて決勝トーナメント2回戦と準決勝という割り当てをいただきました。このような舞台で吹くことができたということ、多くの上級の方と一緒に吹くことができたということ、多くの上級の方に見ていただき、アドバイスをいただけたこと、これらの経験を県内に持ち帰り、今後の自分のレベルアップにつなげていきたいです。また、学んだことを県内でも広めていけるように努めていきます。

最後になりましたが、講師の方々をはじめ運営をしてくださった東京都の審判委員の方々、予選リーグでの運営をしてくださった千葉県・埼玉県・神奈川県の方々、お互いに切磋琢磨があった九州ブロックの方々、このようなチャンスをくださった県協会の方々から感謝申し上げ、本大会の報告とさせていただきます。